

子供の頃、僕の田舎では、水が張られる前の田んぼが遊び場
でした。キックベースボールやゴムボールを使った三角ベース。

でも田んぼに水が張られると、当然ながらそんなボール遊びはできません。

田植えを待つ田んぼは、鏡のように空の青や山の緑を映しだし、どこか神聖な雰囲気を出します。

そして、畦や水路ではオタマジャクシやカエルやドジョウやゲンゴロウやタイコウチが活動的になります。

水の張られた田んぼは、生きとし生きるものに躍動する生命の息吹を与え、命を育む母となります。

稲作をはじめ農業は、結局は自然が大きく影響します。

猛暑、冷夏、日照不足、大雨、長雨そして台風。

「お米一粒の中には7人の神様がいる」という言葉があります。

7人の神様って、水の神様、土の神様、太陽の神様、風の神様・・・？。

神様の内訳はわかりませんが、きっとその言葉は、作る人の努力に加え、人間では力が及ばない

いくつもの幸運な偶然に恵まれて、やっとお米はできる、という意味ではないでしょうか。

だからこそ、神様に祈りを捧げる「田植祭り」や「田植神事」が全国にあるのだと思います。

滋賀県大津市で5月8日、散歩中の園児の列に軽自動車が入り込む事故が起きました。

亡くなった園児のことを思うと何ともやりきれなく、切ない気持ちになります。

ただ考えてほしいのは、この事故の類は、誰でもいつでも起こしうる事故だということ。

最近話題になっている「あおり運転」や「逆走」なんかと違って、この事故にはどこにも悪意はありません。

社会問題になっている高齢ドライバーの交通事故のように、「若い」の問題もありません。

ほんのちょっとした「意識」の差で、運転手はとんでもなく重い十字架を背負うことになりました。

豊年満作が約束されない田植えであれば実りの秋までの安全を神様に祈りますが、安全運転は少し違います。

安全運転は、ひとりひとりが他者ではなく自分自身に対して誓うものではないでしょうか。

会社で社有車を使用していたり、社員にマイカー通勤を許可したりしている会社は、この事故を機に

「安全運転に関する誓約書」を書いてもらったり、車両管理規定を見直ししたりして、社員の皆さんの

「安全」に対する意識を高めることを考えてみてはいかがでしょうか。

巷では、イヤホンをして歩く人が増え、歩きスマホや自転車のスマホ運転、歩く人も自転車や車の運転手も

高齢化が進んでいます。交通事故のリスクは数年前と比べて格段に高くなっているのです。

皆さんの職場から、「加害者」と言われる不幸な人を出してほしくありません。

日差しが強くなるこれからの時期、毎年気になっていることがあります。

それはダース・ベイダーのようなフルフェイスのサンバイザーのご婦人。(##^^#)

先日僕が自転車で走っていた時、雨が降っているのに光を反射するフルフェイスのサンバイザー

で顔を覆った上、自転車用傘スタンドで傘をさして、道の右側をこっちに向かって真っすぐ

走ってくる自転車のご婦人がいました。表情や目線がまったくわからないので、ホント怖いです。

そういやサッカー元日本代表の長谷部誠さんはその著書「心を整える」の中で、子どもを自転車に

乗せて一生懸命こいでいるお母さんの姿を女性の魅力的な瞬間のひとつと言いました。

なるほど、紫外線対策もそこそこに小さな命を守って自転車を漕ぐお母さんの姿は、日差しの中、

汗を拭きながら早苗を田に植えていた、鮮やかな赤いタスキの「早乙女」の姿と被るようです。

雨の中カッパを着用して子どもを乗せて自転車のペダルをこぐお母さんにも、本当に頭が下がります。

子どもにとっては、守ってくれるお母さんは女神様。自転車の運転も安全運転をお願いしますね。

決して、まわりに不安と恐怖を与えるダース・ベイダーみたいにならないでくださいね。



逆走でも
自分からは
避けてくれ
ないんだよ

